

伸びる！産業の先駆者たち

インキュベーション施設で
事業化に挑むベンチャ―

「強度が求められる構造物にはコストが安い鉄鋼材料が多用されるが、鉄は極端に錆びやすい性質を持つ。長年、鉄錆を研究してきた、錆を抑制する技術を開発できた」大学発ベンチャ―京都マテリアルズの山下正人代表取締役(53)はこう話す。

「さびで錆を制する」わけだ。その効果は半永久的に持続するという。钢材表面を本来、自然界に存在する「鉄鉱石」に還す(同)といふわけだ。

山下氏は民間企業出身で、ことであって、「実用化し世の中に出してこそ技術」と考へ、大学研究者らとともに、精密金型事業と合わせて2012年に

■12 ■

起業。京都大学や大阪大学などの産学連携もあって、同時に反応性塗料パティーナロックを商品化した。この技術は地元き農会で「ブランク認定」りそな中小企業財團の中小企業優秀新技術・新製品優秀賞、そして

今月には第6回ものづくり日本大賞特別賞を受賞するなど、高評価を得ている。

鉄鋼材料の防食については、

鉄鋼材料の長寿命化を実現

「さびで錆を制する」技術事業化

塗装、メッキなどの方法もあるが、それでも「長くて50年程度しかもたない」(同)。錆を研磨剤で除去して再塗装するプラスチックを施しても、限界はある。「お墨付き」を得られたことで、今後は社会問題化していく構や鉄塔などインフラ施設の老朽化対策つまり公共事業向けて、膨大な市場取り込みも夢ではない。

京都市では、すでに道路照明施設や小中学校の補修などを試験施工した。なかでも照明塔などでは適用から1年を経て京都市建設局などが優れた効果を確認したと発表。今後も経過調査を行うとともに、道路付属物など公共施設に積極的に活用していくとしている。公共施設での「お墨付き」を得られたことでも、今後は社会問題化していく

限りはない。

外部との連携を重視

「京大桂ベンチャ―原田易典氏

研究部門も含まれています。ベンチャ―企業は京都大学の基礎研究開発から出発したところが多いですが、単独で事業化するのはなかなか難しいため、施設や外部の大手企業の力を借りることが重要です。

ベンチャ―ロックの増産に向けては、ベンチャ―キャビタルによる出資提案もあるが、自社でも優れていて、簡単な本布作業で済むことから、現在は化学商社大手の長寿命化に貢献できれば」と話す山下代表取締役「新設の鉄筋

「パティーナロック」の製品例

京都マテリアルズ ▽代表取締役・山下正人氏 ▽設立・2012年2月 ▽事業内容・防錆技術開発・反応性塗料、耐摩耗性・耐疲労性材料および精密鍍金型の研究開発・製造 ▽資本金900万円 ▽社員数・17人 ▽075-874-1391

京大桂ベンチャープラザ ▽所在地・京都市西京区御陵天原1-36、39(桂ノバーションパーク内) ▽開設・北館2階70平方メートル ▽南館2007年1月延べ床面積・北館2570平方メートル、南館2600平方メートル

4年8月、南館2007年1月延べ床面積・北館2570平方メートル、南館2600平方メートル

方材(28等)、南館2600平方メートル

馬鹿めっき鋼材にも対応する4種類を商品化しているが、「水中、海中、高温下などさまざまな環境条件でも使える製品や、鉄以外の素材でも使える製品を開発し、検証開発を図りたい」と山下氏は語る研究開発の加速を見据えている。

現在は、既存の錆層向けや、長い間、さびを研究してきた山下氏の成果が、鉄鋼材料の常識を変えるかもしれない。

「研究開発設備もあり、さまざまサポートを得られる」と考へた、さびに展望は開けた。

同社は創業した年の7月、京都市建設局などが優れた効果を確認したと発表。今後も経過調査を行うとともに、道路付属物など公共施設に積極的に活用していくとしている。公共施設での「お墨付き」を得られたことで、今後は社会問題化していく

研究開発から出発したところが多いですが、単独で事業化するのはなかなか難しいため、施設や外部の大手企業の力を借りることが重要です。

ベンチャ―ロックの増産に向けては、ベンチャ―キャビタルによる出資提案もあるが、自社でも優れていて、簡単な本布作業で済むことから、現在は化学商社大手の長寿命化に貢献できれば」と話す山下代表取締役「新設の鉄筋

「さびのコントロールにより社会インフラなる」と語る山下代表取締役「新設の鉄筋

起業。京都大学や大阪大学などの産学連携もあって、同時に反応性塗料パティーナロックを商品化した。この技術は地元き農会で「ブランク認定」りそな中小企業財團の中小企業優秀新技術・新製品優秀賞、そして

今月には第6回ものづくり日本大賞特別賞を受賞するなど、高評価を得ている。

鉄鋼材料の防食については、

「使用すれば長寿命化を図れ」と用途広い。

瀬戸内市と、ライセンス契約方式で委託生産する交渉を進めてお

り、年内には結論を出す予定だ。

交通の通路では、「需要先が自動車運送業やプリント機器などに

マネージャー(EM)から基

金や補助金活用などについてさまざまな情報をもらい、「大変助かっている」と述懐する。

「(戦略的基盤技術高度化支援)事業の認可を受けた例も出るなど、成果がでています。

私は商社で業務や新規事業などを手掛けた後、9年前からインキュベーションマネージャーを務めています。当施設は、地元の自治体や公的研究所などと連携した支援ネットワークを構成しており、技術シーズも多いため、事業化や助成金、販路開拓支援だけでなく、3人の技術系マネージャーが常駐し、研究開発支援体制もあります。これらの資源を生かし、地域に根差した企業の振興を図りたいと思つて、いつから、現在は化学商社大手企業の شبیه است.

（談）